2007 年度 小委員会活動成果報告

（2008 年 2 月 10 日作成）

小委員会名	建築空間の質感・色彩設計法小委員会	**主 査 名**：佐藤　仁人 **就任年月**：2005 年　4 月
所属本委員会 **（所属運営委員会）**	環境工学本委員会 （光環境運営委員会）	**委員長名**：井上　勝夫 **主 査 名**：岩田　利枝
設　置　期　間	2005 年　4 月　～　2009 年　3 月	
設　置　目　的 **各年度活動計画** **（箇条書き）**	・建築空間における材料の質感と色彩とがイメージに及ぼす相互作用の評価 ・質感に対応した新しい色彩設計法の提案 ・　2005 年度：シンポジウムの実施，既往文献の整理・問題点の整理 ・　2006 年度：質感の定義，色彩と質感の相互作用，研究成果の収集，見学会実施，シンポジウムの実施 ・　2007 年度：質感の定義，色彩と質感の相互作用，研究成果の収集，見学会実施，シンポジウムの実施など 「建築室内の色彩と材料の実態調査 WG」の発足 「視覚的質感の記述法 WG」の発足 2008 年度：成果のまとめ，論文執筆もしくは資料の作成，シンポジウムの実施	
委員構成 **（委員名（所属））**	**委員公募の有無**：無 石田泰一郎（京都大学）、稲垣卓造（大同工業大学）、井上容子（奈良女子大学）、飯島祥二（岡山商科大学）、大野治代（大手前大学）、郭清蓮（金沢工業大学）、北村薫子（武庫川女子大学）、熊澤貴之（岡山県立大学）、佐藤仁人（京都府立大学）、中山和美（東京電力）、名取和幸（日本色彩研究所）、槙究（実践女子大学）、宮本雅子（滋賀県立大学）、山本早里（筑波大学）	
設置 WG **（WG 名：目的）**	・　建築室内の色彩と材料の実態調査 WG インテリアに使用されている色彩および素材の実態を調査すること。 ・　視覚的質感の記述法 WG 建築仕上げ材の視覚的質感を定量的に記述する手法を提案する。	
2007 **年度予算**	55,000 円	**ホームページ公開の有無**：無 **委員会 HP アドレス**：

項　　目	**自己評価**
委員会開催数	4 回（年度内計画を含む）
刊行物 **（シンポジウム資料等は除く）**	
講習会	
催し物 **（シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等）**	１．シンポジウム「建築空間の色・素材・質感」　参加者数 95 名 （資料名）シンポジウム「建築空間の色・素材・質感」
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 **（当初の活動計画と得られた成果との関係）**	１．シンポジウム「建築空間の色・素材・質感」を実施，100 名の参加者 ２．「建築室内の色彩と材料の実態調査 WG」の発足と活動 ３．「視覚的質感の記述法 WG」の発足と活動
委員会活動の問題点・課題	１．委員会の開催場所

＊　小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

＊　中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2007 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4 **段階評価**)	A
総合評価に関する **自由記述欄** (**理由、特記事項等**)	2007 年度の目標である, シンポジウムを実施したところ, 100 名の参加者があり, 委員会の活動を広報することができた。その中に, 質感の定義, 色彩と質感の相互作用, などについても普段の委員会成果を盛り込むことができた。 また,「建築室内の色彩と材料の実態調査 WG」,「視覚的質感の記述法 WG」を発足させ, 委員会活動をより深いものにすることができたと考える。

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画･目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度

- 小委員会の活動に対し、第三者的評価･外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。